

工業「繊維製品」	単位数	3単位
	学科・学年	繊維科・第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 繊維及び繊維製品に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	新版テキスタイル製品（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	考 査 範 囲
1 学期	1 糸の種類 2 糸の構造	4	・糸の分類について学習する。	中間
		5	・糸の太さについて学習する。	
		6	・糸を表現する方法について学習する。	期末
		7	・糸のよりについて学習する。	
2 学期	3 糸の性能と用途 4 糸の試験方法 5 布 6 織物の組織と構造	8	・糸の特性と性能に応じた用途を学習する。	中間
		9	・布の分類について学習する。	
		10	・織物組織について学習する。	
		11	・三原組織について学習する。	期末
		12	・変化組織について学習する。	
3 学期	7 織物の特別組織	1	・特別組織・重ね組織について学習する。	学年末
		2	・糸の性能が織物にもたらす影響について学習する。	
		3	・色糸効果について学習する。	

(2) 評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	・糸や布の性能に興味を持ち、身の回りの繊維製品と関連付けて学習することができるか。
思考・判断・表現	・糸や布の性質や用途を、身近な繊維製品に置き換えて考えることができるか。 ・用途に応じて必要な性能を考慮し、適当な糸や織物を選ぶことができるか。 ・適切な専門用語を用いて繊維製品の性能や用途を説明できるか。
技 能	・色糸効果を意匠紙に表せる技能を修得しているか。 ・織物組織から織り方図を作ることができるか。
知 識 ・ 理 解	・糸の太さを表記する方法を知っているか。 ・織物組織によって性能や風合いがどのように異なるか理解しているか。 ・糸の性能が織物に与える影響について理解しているか。
<p>・成績評価は、定期考査・実技評価を基本として、上記4つの観点を含めた平常の学習活動・学習態度、ノート・プリント・課題などの提出物、出席状況などにより総合的に判断する。</p> <p>・学年末の成績は、第1・2・3学期の評価をもとに総合的に判断して評価する。</p>	

3 確かな学力を身に付けるためのアドバイス

<p>・身近な繊維製品について、糸の種類や布の組織を調べてみよう。それぞれの単元において主体的に調べ学習をすることが、確かな学力を身に付ける上で効果的です。</p>
